

みやぎ復興パーク通信（創刊号）

みやぎ復興パーク活用レポート **（株）昭特製作所仙台工場 編**

《3.8mに達する津波で工場は壊滅状態》

昭和 19 年に神奈川県川崎市で創業した同社は、テレビスタジオ用機器をはじめ産業用機械、電子制御装置の設計製作や金属材料試験片の製作を行い、他にない技術・機械を開発するオンリーワンの存在として産業界の支持を得ている。昭和 60 年に仙台市宮城野区蒲生に仙台工場を開設し、テレビスタジオ用機器部品や規格試験片加工を中心に特殊な部品製作等を手掛けてきた。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災では、工場床より 3.8m に達する津波で工場は壊滅状態、当時工場内で働いていた社員は、車で避難、又は指定避難所のキリンビール工場へ避難し、難を逃れた。

「キリンビール工場へ避難した社員はそこで一夜を過ごし、翌日工場を見に行くと建屋 1 階の壁に穴があき、10 t を超える設備が泥まみれとなって流されているなど信じられない光景がそこにあった。」と斎藤工場長。

《復興を目指す場所として最適》

社員全員の安否確認に 3 日かかり、全員の無事を確認できたものの、工場は手が付けられない状況であり、社員の多くは自宅待機とした。平成 23 年 5 月には仮事務所を中野栄に構え、6 月には取引先工場の一角を間借りして業務を再開した。設備等購入にあたっては、宮城県の補助制度を活用できることとなったが、復興に向けて仙台工場では何を製作したらよいか、どのような設備を選定したらよいかなど、手探りの中で進めるしかなかった。社員においては、自宅待機を解き、仙台工場のほか本社（神奈川県川崎市）や京浜及び福山の各事業所に配置転換し、雇用確保に努めた。

しかし、いつまでも取引先の好意に甘えているわけにもいかず、近郊で天井走行クレーンの使える工場の場所探しを始めたが、工場として使用できる場所を見つけることが出来ずにいた。

そのような状況が続き、工場再建のめどが立たず困っていた時に「みやぎ復興パーク」の存在を新聞で知り、面識のなかったソニー（株）仙台テクノロジーセンターの当時の伊藤代表に直接電話を入れたのが入居への始まりとなった。

ここからはトントン拍子で話が進み、工作機械を導入する当社にとって工場スペースが十分あったことや立地も良かったことから、復興を目指す場所として最適と判断し、平成 23 年 10 月に入居申込みをし平成 24 年 3 月に入居するに至った。



〔 パーク内作業風景 〕

《震災前より社員の意識が変わり、現場の改善等に繋がった》

みやぎ復興パークに仮の居を構え、各事業所に配置していた仙台工場の全社員を呼び戻し、完全復活を目標に生産に取組んだ。同時に、震災前に所有していた施設・設備の復旧に対する補助金「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業（以下「グループ補助金」という。）」に申請し、採択を受けられたことで、仙台工場の続行を正式に決めることが出来た。

震災の影響で変化が生じた受注形態を踏まえ、どのような設備を選定したらよいか吟味しながら、徐々に工作機械を増やし生産体制を整えていった。残念ながら、入居した場所も天井走行クレーンが使える場所ではなかったが、主取引先へのアクセスの良さ、重量設備に耐えられる床や広いスペースは、迅速な生産体制整備に大きなメリットとなった。

しかし、新しくなった加工設備について、不良品がでないよう加工条件の整備は手付かずの状態、均一な試験片を生産するには不安定な要素が残っていた。また、一方で今後増えていくであろう金属を含めた新素材の加工方法も確立していかなければならず、これを担う中核的人材育成が進んでいなかった。現場の見直しや社員教育を含め、当



〔 新工場内作業風景 〕

機構の「宮城県復興企業相談助言事業」を活用して、専門家から「5S活動」「見える化」「品質改善」「コスト研修」などの助言を受け、復興に向けた効率的な業務改善や職場環境の整備等に取り組んだ。

社員は、専門家の支援を受けたことで、5S活動による見える化やコストに対する原価意識等が高まり、具体的な問題や課題についても自らが考え工夫した行動をするなど、震災前より社員の意識が変わり、現場の改善や品質向上等に繋がった。

さらに、みやぎ復興パークがあるソニー(株)仙台テクノロジーセンターの管理体制に合わせるのが最初は負担になることもあったが、避難訓練や清掃活動等と一緒に参加していったことで、組織管理の重要性や社員ひとり一人が安全・清掃に対する意識の改善にも繋がっている。

※平成 25 年 5 月 工場の修復工事がスタートし、8 月に元の工場へ戻る事が出来た。

《みやぎ復興パークに対する社長の言葉》



〔 花田社長様 〕

みやぎ復興パークに入居できた一番の成果は、各事業所へ赴任していた社員を全員呼び戻し、復興に向けての基盤作りを進めることができた事です。

その間、みやぎ産業振興機構の皆様方におかれましては、生産体制整備、中核的人材育成など、復興に向けた効率的な業務改善や職場環境の整備に多大なる御尽力を賜り、感謝申し上げます。

お陰様で、元の工場に戻ってから1年半が過ぎました。

復興とは、震災前に戻るのではなく、困難をバネにより良い未来を目指すことだと思います。みやぎ復興パークでの経験を活かし、より良い未来を目指して邁進していく所存です。

【発行及び問合せ先】

公益財団法人みやぎ産業振興機構 産学連携推進課

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目14番2号

TEL 022-225-6638 FAX 022-263-6923

(みやぎ復興パーク・平成26年11月の状況)

○入居者数・・・29団体(入居率54%)

○見学・視察件数・・・3団体97名(累計：48団体739名)